

音楽科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校 教諭 〇〇 〇〇

- 1 日時 平成22年9月〇日
- 2 学年 第4学年〇組
- 3 題材 曲の気分を感じ取ろう
- 4 題材の目標

- 歌詞の表す様子を思い浮かべて、歌い方を工夫することができる。
- 曲想を感じ取って、強弱に気を付けて聴いたり表現したりすることができる。

5 教材

「もしも」 (秋葉てる代 作詞/川崎祥悦 作曲)

「つるぎのまい」(ハチャトゥリヤン 作曲)

6 題材について

- 本題材は、新学習指導要領の2内容A表現(1)イを中心に設定したもので、歌詞の内容から自分の思いや願いを持ち、その思いにふさわしい表現を工夫することをねらいとしている。この題材では、子ども一人ひとりの感性を大事にし、各自の思いや願いを歌唱表現に表すことで、「自分の音楽」「自分の歌」として自分にとって価値のある音楽にしていくことに重点をおくものである。

「もしも」は、魔法が一つだけかなうとしたらという設定で、子どもの願いを実現するような楽しい歌詞で作られている。特に、歌詞の中の「いったいなんにする」や「ほんとにまほうがあるといい」という部分では子どもたちが共感し、素直な思いや願いを引き出すことができると考える。最後の6小節では、付点やシンコペーションなどのリズムの特徴が見られ、子どもたちが表現の仕方を工夫するのに適した教材だと考える。

- 本学級は音楽が好きな児童が多く、様々な音楽活動に意欲的に取り組もうとする。歌唱については、4月は叫んで歌ったり、一人ひとりが互いに聴き合うことなく勝手に歌ったりしており、みんなで心を合わせて歌う状態には至らなかった。そこで、5月頃から響きのある歌い方について学習し、少しずつではあるがきれいな歌声を求めるようになってきた。そして子ども自身も声の変化に気付き、歌うことが楽しいだけでなく、気持ちよいと思うことができるようになってきた。

「とんび」の学習では、「ピンヨロー」の部分に強弱を付けて歌った。その際に「とんびが遠くにいるから小さく歌う」「とんびが近寄ってきたからだんだん大きくする」など、歌詞の内容から表現を工夫する学習を行い、歌唱表現の楽しさを味わうことができた。

- 指導に当たっては、次のことに留意したい。

まず、児童には強弱記号が記入されていない楽譜を配布する。次に縦書きにした歌詞を一人ひとりが気持ちよく読む活動を取り入れ、歌詞の内容を理解し、自分の思いや願いをもつことができるようにする。そして、自分の思いや願いを書き込んでいく活動を行う。

本時では、書き込んだ思いや願いを歌でどう表現するかということについて、特に強弱に重点を置いて考えていきたい。今回は、最後の「ほんとにまほうがあるといい」という部分を取り上げて十分考えさせる。強弱記号(7種類)はカードに書いて黒板にはっておき、児童はそれを見ながら自分の楽譜に書き込むことができるようにする。

発表の場では、その書き込みをもとに、一人で歌ったり、教師と一緒に歌ったりするなど、実際に歌ってみる活動を取り入れる。安心して表現できるように、発表の時間を十分確保し、思いが伝わる表現を見つけ、声かけをしたりするようにしたい。また、友達の表現方法を模倣して一緒に歌う活動を取り入れることで、それぞれの表現のよさを感じ取る体験を積み重ねるようにする。

本題材で、自分の思いを安心して表現し、同じ歌でも一人ひとりの歌として歌えるようになることで、歌の楽しさや充実感を味わわせたいと考えている。

7 題材の評価規準

	ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や 表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
題材の 評価規準	歌詞の内容や曲想に関心を持ち、進んで表現しようとしている。	歌詞の内容や曲想を感じ取って表現の仕方を工夫している。	歌詞の内容や曲想を生かして表情豊かに歌うことができる。	曲想を感じ取ったり、場面の様子を想像したりしながら聴くことができる。
学習活動における 具体的評価規準	① 自分の表現意図を持ち、進んで表現しようとしている。	① 歌詞の内容を生かして、強弱に着目した歌唱表現を考えている。	① 正しい音程やリズムに気を付けて歌うことができる。 ② 豊かな歌唱表現を求め、強弱表現を生かし曲想にあった歌い方をすることができる。	① 場面の様子を想像しながら、強弱に着目して聴くことができる。

8 指導計画・評価計画（全7時間）

	ねらい	教材	時	学習活動（○） 学習内容（・）	評価規準・方法
第一 次	歌詞の内容や曲想を感じ取って歌い方の工夫をし、表情豊かに歌えるようにする。	もしも	第1時	○「もしも」の歌を知る。 ・主旋律の練習	【関心・意欲・態度】 活動の観察 演奏の聴取
			第2時	○ 歌詞を読み、歌詞から感じ取った自分の思いを書く。 ・歌詞への書き込み	【関心・意欲・態度】 楽譜への書き込み
			第3時	○ 歌詞の内容や旋律から歌い方を考える。 ・「きみはいつたいなんにする」の部分の歌い方の工夫 (強弱について)	【音楽的な感受・工夫】 楽譜への書き込み 表情 演奏の聴取
			第4時 (本時)	○ 歌詞の内容や旋律から歌い方を考える。 ・「ほんとにまほうがあるといい」の部分の歌い方の工夫 (強弱について)	【音楽的な感受・工夫】 楽譜への書き込み 表情 演奏の聴取
			第5時	○ これまでの表現の工夫を生かしてそれぞれの「もしも」を完成させる。 ・曲想にあった歌い方を目指して練習する。	【表現の技能】 演奏の聴取 活動の観察
第二 次	曲想を感じ取ったり、場面の様子を想像したりしながら聴く。	つるぎのまい	第6時	○ 曲を聴いて曲の感じをつかむ。 ・場面の様子を想像しながら聴く。	【鑑賞の能力】 ワークシート 活動の観察
			第7時	○ 強弱に注目して聴く。 ・強弱記号を記入しながら聴く。	【鑑賞の能力】 ワークシート 活動の観察

9 本時の目標（4／7時間）

☆ 自分の思いを強弱で表し、歌い方を工夫することができる。

10 学習の展開

学習活動	教師の働きかけ 予想される児童の姿（・）	教師の支援（○） 個への支援（※）	評価（☆） 【評価規準】 評価方法
1 リコーダーをふく。	指 サミングの指遣いに注意しながらリコーダーをふきましょう。	○楽しい雰囲気になるように声かけをする。	
2 「もしも」を歌う。	指 音程を確かめながら歌いましょう。	○黒板に楽譜を掲示しておく。	
3 本時のめあてを確認する。	自分の思いを強弱で表し、歌い方を工夫しよう。		
4 歌詞を読み、歌い方を工夫する。	指 前時で感じ取ったこと（どの歌詞からどんなことを思ったか）を発表しましょう。 ・本当に魔法があったらいいなあと思いました。 ・僕だったらこんな魔法が使いたいと思いました。	○出ない場合は第2時に書き込んだ思いを教師が取り上げる。	
	発 それぞれが感じ取ったことを歌で表すにはどんなふうに歌えばいいでしょうか。楽譜に強弱記号を書き込んでいきましょう。 〈工夫するポイント〉 強弱のつけ方 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・強く ・やや強く ・弱く ・やや弱く ・だんだん強く ・だんだん弱く ・その音を特に強く </div> <ul style="list-style-type: none"> ・本当に魔法があったらいいと思っているから、2回目は1回目よりも強く歌ったらいい。 ・本当にいいなあと思っているから、「いい」の所は特に強く歌ったらいい。 	○児童が考えやすいように、強弱記号を書いたカードを提示する。 ○カードに書いていない表現の仕方も取り上げていいことを伝える。新しい表現が出た場合は全体に広めるようにする。 ○自分でしっかり考えるために、ある程度考えがまとまったら、伴奏のみを流し、考えた歌い方を自分で歌ってみる場面を何度か設ける。 ※考えにくい児童はその児童の思いを大切にしながら一緒に考える。必要があればグループにする。	☆どんな歌い方をすればいいかを考えている。 【イ-①】 ・楽譜への書き込み

	指	<p>自分が考えた歌い方を発表しましょう。それをみんなで歌ってみましょう。</p> <p>〈発表の仕方〉 最後の部分の楽譜のみを用意し、その楽譜に言葉や記号を直接書き込んでいく。</p>	<p>○正解や不正解はなく、どの表現でもいいことを伝える。そのために常に子どもの思いとつなげるように声かけをする。</p> <p>○子どもから出た歌い方を実際に歌って表現の違いを確かめるようにする。 ※児童による歌唱表現が難しい場合は教師が歌って示す。</p>	<p>☆表現の仕方を工夫しながら歌っている。</p> <p>【イー①】 ・発言の内容やそれに対する反応</p>
5 全員で歌い、本時のまとめをする。	指	<p>強弱に気を付けて、一人一人が考えた歌い方で歌ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は○○さんの歌い方で歌ってみよう。 ・先生の歌い方で歌ってみよう。 	<p>○歌い方の工夫が確認できるように拡大楽譜に書き込んでおく。</p>	
6 次時の課題を知る。	指	<p>次の時間は今日工夫したことを生かして、一人一人の「もしも」を完成させましょう。</p>	<p>○児童に感想を聞くことで学習のまとめを行う。</p> <p>○自分なりに工夫して歌えたかどうか挙手により評価する。</p>	

11 本時の評価規準

学習活動における 具体的評価規準	【イー①】 歌詞の内容を生かして、強弱に着目した歌唱表現を自分なりに考えている。
具体的な評価の方法	自分の思いを歌でどう表現したらよいかを考えている時の楽譜への書きこみや、友達の考えた歌い方を歌っている時の様子から判断する。
Aと判断する場合の例	<p>○ Aと判断するキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 歌詞をもとにして、自分が感じた具体的な工夫が表れている楽譜 ◇ 工夫に基づいた演奏の聴取 <p>意欲的に取り組み、カードに書かれていない表現の工夫などを取り入れている児童はAの対象とする。またその歌い方を表情豊かに表現している児童も対象とする。</p>
Cと判断する児童への働きかけ	歌い方の工夫が考えられない場合はカードを参考にしながら、教師や友達と対話することで思いを持てるようにする。表情豊かな歌い方については具体的な歌い方について声かけをしたり、そばで一緒に歌ったりする。